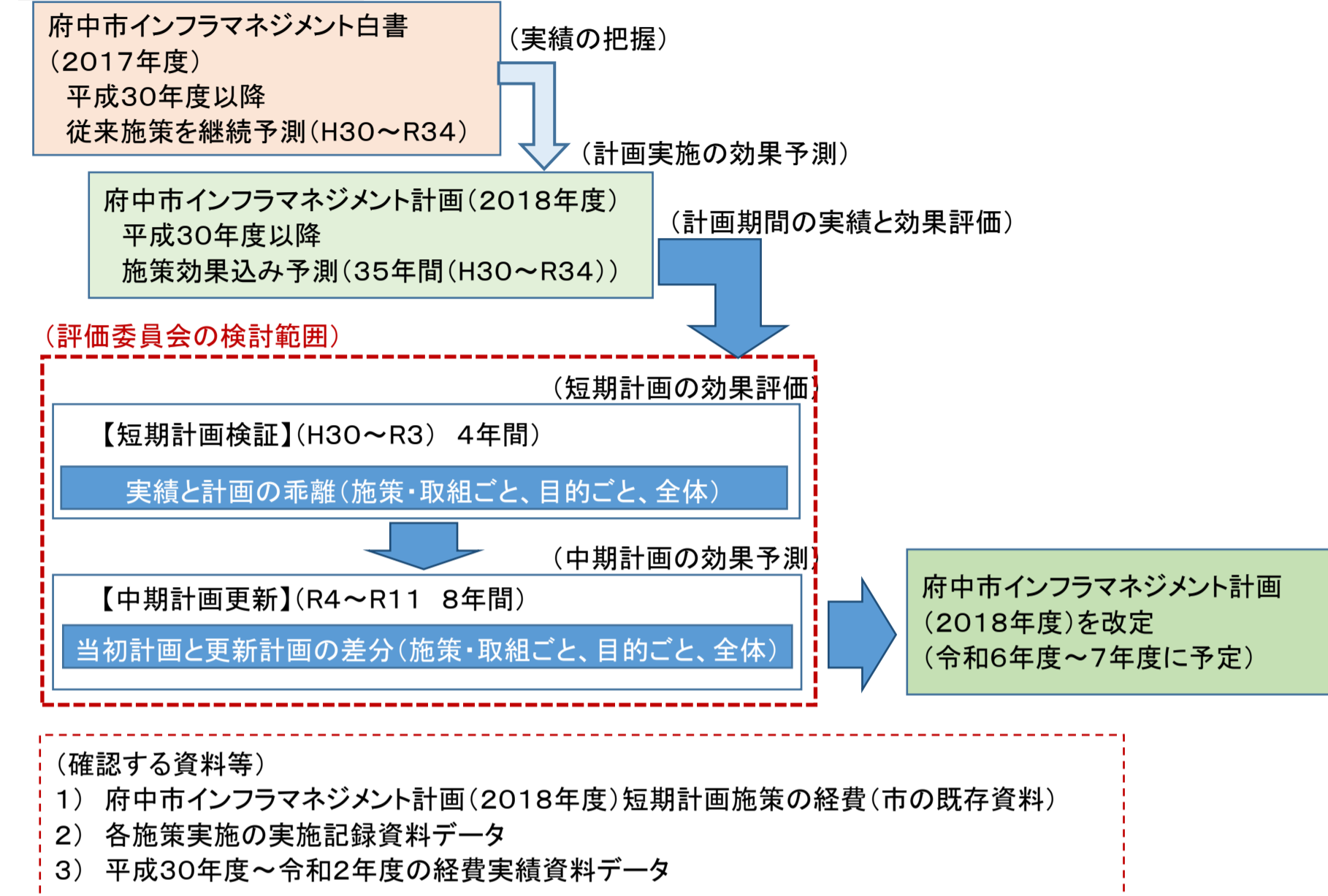


## 府中市インフラマネジメント計画(2018年度)の評価方法 (平成30年度～令和3年度 4年間)

### 【評価委員会の検討範囲】



### 【短期計画期間の評価】

#### (方針)

各施策の進捗や、府中市インフラマネジメント計画(2018年度)と歳出額の乖離などから、施策ごとに効果を評価する。

#### (手順)

- 1 短期計画期間の各施策の実績額を把握するため、所管課の委託案件や歳出目的を特定できる決算資料(平成30年度～令和2年度)を分析する。
- 2 各施策実施の効果は、現計画策定時に見込んだ「施策効果 見込み額」を考慮した経費予測額と実績額を比較する。
- 3 各施策の進捗が遅れている場合の原因を分析する。
- 4 各施策の短期計画期間の取組結果を、内部資料として「府中市インフラマネジメント計画(2018年度)」の「第3章 3施策の取組内容」に追記する。

### 【中期計画の取組の精査】

#### (方針)

インフラを継続的に管理する本来の目的である継続的な安全確保の視点で、各施策の取組度を精査する。

#### (手順)

- 1 短期計画期間の評価結果と中期計画での各施策の当初見込みにより、各施策の効果を再予測する。
- 2 重点的に取り組むべき事項や予測結果等を踏まえ、中期計画の取組について、優先順位を検討し整理する。
- 3 中期計画の取組の優先順位を、内部資料として「府中市インフラマネジメント計画(2018年度)」の「3 施策の取組内容」に追記する。

## 中期計画期間において重点的に取り組むべき事項(予測)

### 【現状】

- 1 インフラマネジメント計画の施策に取り組むことにより一定の経費削減効果があった。
- 2 今後は、経費削減効果を得ながらインフラ施設の安全な利用を継続することが求められる。
- 3 そのためには、より踏み込んだ附属施設の安全点検や大型構造物などの補修更新費の増加が見込まれることから、思い切った予算配分が必要になる。

### 【課題】

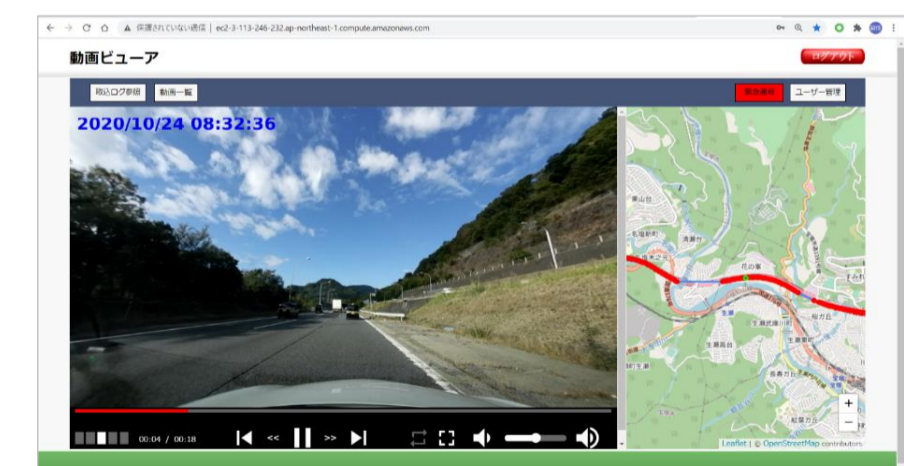
- 1 街路樹や公園樹木は、市民の通報や巡回中に発見するごとに不具合に対処していたが、「府中市街路樹の管理方針」に基づき計画的に管理する方針としたものの、令和2年度では街路樹と走行車両が接触する事故が複数発生するなど、計画を実現するための管理経費が不足している。
- 2 法定点検が義務付けられている橋りょう、公園遊具、大型擁壁等の大型構造物の点検を行い構造的な安全を確認しているが、とくに大型擁壁の表面剥離などへの対応が進んでいない。
- 3 法令点検が義務付けられていない(法令や条例で定められていない)附属施設等では、不具合を発見し補修したことを記録しているが、令和2年度には朝日町通りで、目視できない部位を原因とする街路灯支柱の倒壊が発生している。各施設が安全であることを確認するため、さらに踏み込んだ管理基準の設定や全施設の安全点検などの、新たな管理経費が必要である。

### 【取組(案)】

- 1 法令点検が義務付けられている施設(橋りょう(道路橋、歩道橋、ペDESTリアンデッキ)、エレベーター・エスカレーター、公園遊具)、大型構造物の点検結果や今後見直すべき目標を、「(次期)府中市インフラマネジメント計画」に明記し、安全性に関する目標管理制度の導入を図る。
- 2 「附属物(標識、照明施設等)点検要領」(国土交通省 道路局 国道・技術課 平成31年3月)など既存の規定等に沿って、市が管理する道路や公園の標識、照明施設、標識等の支柱や取付部等の安全点検を実施し、附属施設が安全に管理されていることを施設ごとに記録し情報を蓄積する。
- 3 市道や園路などの沿道画像やMMS(モバイル・マッピング・システム)による3次元計測データなど最新のデジタル技術を投入し、路面や街路樹、公園内の施設等、全ての附属施設の安全確認を効率的に行うことで、維持管理費が大幅に増加しないよう計画する。



車載カメラによるリアルタイム映像転送



車載カメラ映像アーカイブ(例)



MMS機材(例) © Leica Geosystems AG